

しあわせなら手をつなごう♪

所属	名古屋市立表山小学校	実践者	大島 風花
対象	小学6年生(108人)	時間数	3時間
場所	プレイルーム(トワイライト)	実践教科	総合的な学習の時間、 社会、国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・エルサルバドルを例に、世界の多様な文化や価値観をおもしろいと感じる。 ・エルサルバドルを例に、日本と世界の国々はつながっており、課題を共に解決していくことが大切だと気づくことができる。 ・自分がしあわせに生き、世界の人々と共によりよい未来を築いていくために、将来のビジョンを描く。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆エルサルバドルって、どんな国？ ①エルサルバドル人と友達になる ・一人一人、エルサルバドル人の友達の情報を受け取る。 ・自分の友達になりきり、グループで自己紹介をする。 ②その友達が暮らすエルサルバドルの文化や習慣について知る。 【グループ対抗クイズ大会】 ③エルサルバドルの文化を体験する 【ピニャータ割り・おもちゃ・民族衣装の体験】	現地アンケート情報 (写真、名前、年齢) パワーポイント(エルサルクイズ) ホワイトボード 18 枚 ピニャータ・おもちゃ・民族衣装(エルサルボックス)
	2	◆あなたにとっての「しあわせ」とは？ ①アイスブレイキング:最近1番「しあわせだな～」と感じたとき ②自分の「しあわせ」につながる「1)大切なもの、2)今ほしいもの or したいこと、3)夢」を書いて、グループで発表する。 ③エルサルバドルも日本でも、戦争や内戦に対して「二度と起こしたくない」と、同じ思いをもっていることに気付く。【クイズ】 ④自分のエルサルバドルの友達の答えを知り、自分たちとどこか違うところや違うところに気付く。 ⑤みんながしあわせに生きるために、地球上の誰にとっても大切なものを、グループで7つ決める。【KJ法】	現地アンケート情報 (1.大切なもの、2.今ほしいもの or したいこと、3.夢) 模造紙・付箋・マジック
	3	◆みんなと「しあわせ」に生きるために ①エルサルバドルの課題に気付く。【フォトランゲージ】 ②算数ができない、進学率が低い、治安が悪い…そういう課題を放っておくと、どうなるか考える。【派生図】 ③みんなとしあわせに生きるために、青年海外協力隊やJICAの人が世界で活動していることを知る。【写真クイズ】 ④日本が東日本大震災の時に受けた支援の状況を知り、世界が互いに支え合っていることに気づく。【数字クイズ】 ⑤みんながしあわせなよりよい未来について、考える。【プレスト】 ⑥自分が望むよりよい未来のために、「わたしのためにできること」「みんなのためにできること」「自分の夢」を考える。	パワーポイント (現地写真3種類) 模造紙・マジック パワーポイント パワーポイント
成果	日本との共通点やつながりに気付きやすいクイズをつくり、楽しく文化を体験することを通してエルサルバドルという国に肯定的に出会うことができた。現地でのアンケート結果から「しあわせ」を見つめ直し、「みんながしあわせなよりよい未来」について考えを深め、よりよい未来を築いていくために自分にできることを、将来のビジョンをもって考えることができた。		
課題	「遠いエルサルバドルとつながっている！」という実感をよりもたせるために、現地の子どものからのメッセージを集めておいたり、現地とスカイプで交流したりという工夫が必要であった。		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「エルサルバドルってどんな国？」

1 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドル人と友達になろう！
一人一人、エルサルバドル人の情報を受け取り、なりきり自己紹介をする。
- ② 友達が暮らすエルサルバドルを知ろう！
グループ対抗で、エルサルバドルについてのクイズ大会をする。
- ③ エルサルバドルの文化を体験しよう！
ピニャータ割り、おもちゃ、民族衣装などを体験し、楽しむ。

この時限のねらい

エルサルバドルと日本の同一性や違うところを楽しみながら気づき、エルサルバドルに肯定的に出会う。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 社会科の「世界の中の日本」という単元と関連して、エルサルバドルを紹介した。「エルサルバドルは、日本とつながりが深いと思う？」と問うと、「薄いと思う」という反応が多かった。そこで、「エルサルバドル人と友達になろう！」と呼び掛け、一人一人にアンケートで集めたエルサルバドル人の写真、名前、年齢の情報を配布した。一人一人違う36人分の情報を配布したため、「一人一人違うんだね！」と興味をもって友達に出会い、なりきり自己紹介をすることができた。
- ◇ 「その友達ともっと仲良くなるために、エルサルバドルという国をもっと知ろう」と、クイズ大会をすると、とても盛り上がった。クイズは日本と似ているところ、違うところに気づきやすいものにした。



<なりきり自己紹介の様子>



<エルサルバドルクイズ>

- ◇ エルサルバドルの文化であるピニャータ割り体験では、割る子どもに対して他の子どもが「もっと上！」などとピニャータの場所を教え、学年が一体となって楽しむことができた。エルサルバドルのけんだまに挑戦したり、民族衣装を着てみると、エルサルバドルを体感することができた。
- ◇ 以下の感想からも分かるように、子どもはエルサルバドルに肯定的に出会うことができた。



<ピニャータ割り体験>

◇ 授業後の子どもの感想

- ・「地震が多かったり、勤勉な人が多かったり、『中米の日本』と言われるくらい共通点があることに驚いた」
- ・「先生が行ったから初めて知った国でしたが、距離は遠いけど、つながりがあって近い国だと知った」
- ・「ドラゴンボールが人気なのは日本もエルサルバドルも一緒」
- ・「家の中にハンモックがあるのがいい」
- ・「ピニャータ割りは日本のスイカ割りと似ていて、おもしろかった」
- ・「日本とそっくりのおもちゃがあって、楽しそうな遊びがいっぱいあってびっくりした」
- ・「他にもエルサルバドルについて知ってみたい」

3 使用した教材

- <教材1> 現地アンケート情報 36人分×3セット
- <教材2> エルサルバドルクイズ
- <教材3> ピニャータ、けんだま、こま、民族衣装



リカルド 32歳

<現地アンケート情報>



Wendy Xiomara Villanueva

(ウエンディ・キシオマラ・ビジャヌエバ) 13歳

2 時限目「あなたにとってのしあわせとは？」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング
最近1番「しあわせだな～」と感じた時。
- ② 自分の「しあわせ」って？
しあわせにつながる「①大切なもの、②今ほしいもの、もしくは、したいこと、③夢」を書いて、グループ内で発表する。
- ③ だれの言葉？クイズ&数字クイズ
エルサルバドルと日本の、戦争に対する同じ思いに気付く。
- ④ エルサルバドルの友達の「しあわせ」って？
前時の自分の友達の答えを受け取り、グループ内で発表し、日本の自分たちと、エルサルバドルの友達たちの同じところ、違うところに気付く。
- ⑤ みんながしあわせに生きるために、地球上の誰にとっても大切なもの
グループで7つ決める。

この時限のねらい

自分のしあわせにつながるものを見つめ、エルサルバドルの友達のしあわせにつながるものを知って、大切なものについて考える。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 時間はかかったが、それぞれの「しあわせ」につながるものを書くことができた。例は以下の通り。

① 大切なもの ・ 家族 ・ 自由な時間、友達、家族 ・ キーパーグローブ、家族 ・ 家族・ねこ	② 今ほしいもの、もしくは、したいこと ・ 妹、外国に行く ・ 健康、長寿、平和な暮らし ・ キーパーグローブ、スパイク ・ 平和につながる仕事	③ 夢 ・ 小学校の先生 ・ 夢を叶えること ・ 自転車で世界一周
--	--	--

◇ 「自分の世代は体験していないから、本当の辛さはわからない。でも、もう二度とそんなことは起こしたくない」という言葉が、だれの言葉か予想させた。「外国の人かな?」「戦争のこと?」と各々予想し、「日本人か外国人か、どちらだと思う?」と問うと、日本人だと思つて答える子どもが大半だった。この言葉はエルサルバドルの語学学校の先生の言葉だと伝えると意外そうな様子を見せた。さらに、「40000→8000」という数字を提示し、何の数字の変化か予想させると、悩みながらも「人数?戦争で亡くなってしまったのかな」と子どもから答えが出た。実際には「スチットという美しい街において、内戦で亡くなった人の数」であると知らせると、子どもはショックを受けた様子だった。語学学校の実際に内戦を体験された先生の話をする、子どもは真剣に聞いていた。以前戦争の勉強をしたことを思い出させ、日本の人も、エルサルバドルの人も、戦いを体験していない世代の人が多くなってきているが、「内戦や戦争を二度と起こしたくない」という気持ちは同じであるということを確認した。



◇ エルサルバドルの友達の「しあわせ」につながる答えを知ると、「大切なものを家族と言っている人がほとんど」「家族が大切なのは、自分と同じ。自分と違って勉強が好き」「友達は将来の夢をしっかりとっていた」など、それぞれに感じたことを書いていた。

3 使用した教材

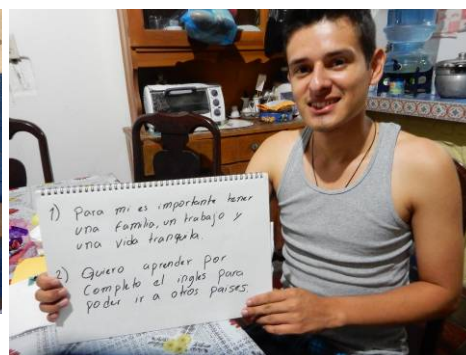
<教材4> 内戦についての現地収集情報(語学学校の先生から)

<教材5> 現地アンケート情報

- ① 大切なもの
- ② 今ほしいもの、もしくは、したいこと
- ③ 夢



- ① 家族
- ② 勉強
- ③ 教職に就く



- ① 家族、仕事、心やすらかな人生を送ること
- ② 他の国へ行けるよう英語をマスターしたい
- ③ 外国に住んでみたい

<現地アンケート情報>

3 時限目「みんなと『しあわせ』に生きるために」

1 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドルの課題って？
友達の住むエルサルバドルの課題を、写真や数字から読み取る。
- ② 課題を放っておくと、どうなる？
「算数ができない」「進学率が低い」「治安が悪い」という課題を放っておくと、どうなるか、派生図を使って考える。
- ③ この人たち、何人？写真クイズ
みんなとしあわせに生きるために、青年海外協力隊やJICAの人がエルサルバドルで活動していることを知る。
- ④ 世界は互いに支え合っている
日本が東日本大震災の時に受けた支援の状況を知る。
- ⑤ みんながしあわせなよりよい未来って？
青年海外協力隊からのメッセージを見た後、「みんながしあわせなよりよい未来」についてブレインストーミングで考える。
- ⑥ よりよい未来のビジョンを描こう
自分が望むよりよい未来のために、できることを考える。

この時限のねらい

世界が互いに支え合っていることに気づき、みんながしあわせなよりよい未来に向けて自分のビジョンを描く。

みんな日本人



<エルサルバドルの青年海外協力隊>



<進学率が低いと...を考える様子>

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ どの課題の派生図でも、「国が破たんする」「死ぬ」「夢が叶えられない」など、どんどん悪い状況に陥ってしまい、自分の友達にも影響が出てしまうことに子どもは気付くことができた。
- ◇ エルサルバドルで出会った5人の青年海外協力隊の方を、顔を隠して「この人たちに共通することは？」と問うと、早い段階で「全員日本人なんじゃない？」と正解を出した。協力隊の人も、JICAの事業も、得意なことを生かして協力していることを知り、「でも、日本が支援する必要あるかな？」と聞くと、うまく答えられなかった。そこで、「174」「16400000000」という数字と、東日本大震災で被害を受けた町の様子の写真を見せると、「震災の時に、世界の国から受けた支援のこと？」と勘づき、東日本大震災の際に、世界174か国から1640億円の義援金を送ってもらったことを伝えた。174か国の国名をずらっと並べた画像を提示した際には、エルサルバドルという国名を必死に探し、「あ！あった！エルサルバドル！」と声を上げた。日本とエルサルバドルが互いに支え合っており、困った時はお互い様だと感じる事ができたようであった。
- ◇ 「みんながしあわせなよりよい未来」について、ブレインストーミングで考えると、「夢に向かってみんなが歩み続けることができる社会」「国同士が認め合う」「国同士が助け合う」「みんながちゃんとした教育を受けられる社会」と、エルサルバドルの友達のことや、世界のことを視野に入れて考えることができた。
- ◇ ビジョンを描く際には、ワークシートの一番上に、自分が望む「みんながしあわせなよりよい未来」を3つ選んで書き、「今」から「未来」に続く時間を縦軸に、「自分のため」「みんなのため」を横軸に、できることを考えた。その中で叶えていきたい「自分の夢」も書いた。



<東日本大震災の際の支援状況を表す地図>

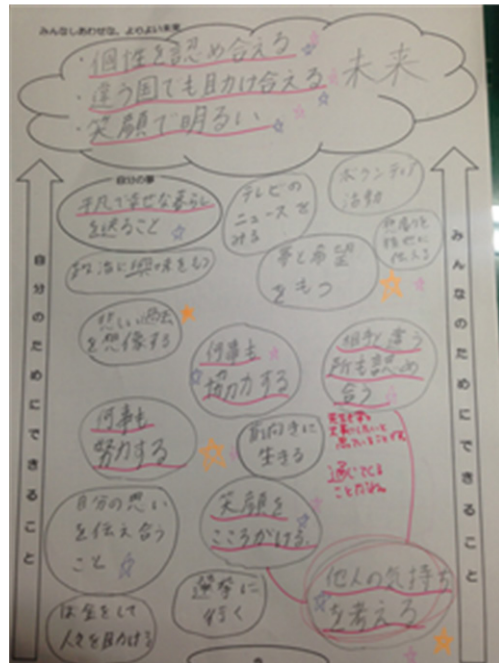
- ・努力をする
- ・勉強をがんばる
- ・勉強が自由にできない国へ行き、勉強を教える
- ・災害があったら、その国へ行き、がれきの撤去などを手伝う
- ・一人一人の意見を尊重する
- ・おそろしい戦争のことを後世の人たちに伝えていく
- ・命の大切さを地球人全員が知るようになる
- ・周りの子を笑顔にする
- ・外国の人たちと触れ合い、仲良くする
- ・ニュースをよく見る
- ・ご飯は残さず食べる
- ・休みの日は家族全員で楽しく過ごす
- ・世界のことをよく知る・現地に行く
- ・みんな仲良くする
- ・ボランティアに参加する
- ・青年海外協力隊に参加する

3 使用した教材

- <教材6> エルサルバドルの課題を表す写真・数字
- <教材7> エルサルバドルで働く人々の写真、動画
- <教材8> 東日本大震災における各国の支援状況



<みんながしあわせなよりよい未来>



<よりよい未来のビジョン>

全体を通して

1 授業の様子

今年度の実践は、昨年度の5年生で1年間国際理解の実践に取り組んだ後の反省を踏まえたものである。持ち上がりの6年生に、世界により肯定的に出会い、世界をより身近に感じ、卒業に向けて自分のしあわせな生き方を考えてほしいと思い、実践を行った。時間のやりくりが難しく、短時間での大人数に対する授業になってしまい、子どもの中におとしきれなかった思いが多く残ってしまった。しかし、みんながしあわせなよりよい未来を考えた際には、授業で気付いたことを生かして、自分にできることを子どもが多く考えることができたことは嬉しく思う。それぞれの自分にできることを今後も忘れず実行していけるよう、声を掛けていきたい。

2 参考文献・資料

1) 一般財団法人 国際開発センター「東日本大震災への海外からの支援実績のレビュー調査」2013. 3
<http://www.idc.or.jp/pdf/idcjr201201.pdf#search=%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD+%E5%90%84%E5%9B%BD+%E6%94%AF%E6%8F%B4>